

1 史跡赤坂遺跡の位置及び概要

(1) 遺跡の位置及び現況 (図1～3)

赤坂遺跡は、神奈川県三浦市初声町三戸に所在し、東に東京湾、西に相模湾を臨む三浦半島先端近くの台地上の中央部に位置する弥生時代中期から後期にかけての集落遺跡である。京浜急行「三崎口」駅前面を走る国道134号線沿いに南に約300mほど進むと、「三戸入口」という交差点があり、国道と直行して「御用邸道路」(市道17号線)と呼ばれる三戸海岸へのアクセス道路がある。この道路の南北に広がる畑地等一帯約70,000㎡が遺跡の範囲と考えられており、初声町三戸字ハタ・丈しが久保と、一部赤坂・大原とを含む広大な範囲に広がっている。

今回確認調査を行った地点は、平成23年3月8日に国の指定を受けた史跡指定地内にあたる。三浦市のほぼ中央に位置する標高約80mをはかる引橋から、北西に伸びた台地のほぼ中央部、前述の御用邸道路南側一帯4,708.86㎡が指定範囲である(図3)。史跡指定地周辺の現況は、市道17号線以北は市街化調整区域で畑地が広がっているが、以南は市街化区域で居住区及び一部商業区となっている。また、昭和52年調査地点、第2次調査地点(昭和60(1985年))、第14次B調査地点(平成7(1995年))、第20次調査地点(平成12(2000年))、第23・24次調査地点(平成19(2007年))が本調査地点と近接し(図5)、各調査地点で竪穴住居址、溝状遺構、方形周溝墓などの遺構が検出されている。平成23年における史跡東側の隣接する商業用店舗の新築工事における試掘調査では、第20次調査地点で検出された方形周溝墓の溝と考えられる溝状遺構を検出しており、その他にも竪穴住居址や住居址に関連する可能性が高い土器だまりなどを検出している。本試掘調査では遺構調査を行わず、事業者と協議の上、そのまま検出した遺構を埋戻し、土盛りをした上で店舗等の建築を行っている。また、平成19年に行われた試掘調査及び第23・24次調査においても検出した遺構はそのまま保存されており、現在の「弥生の郷」居住区の下に遺構が保存されている状況である。よって、史跡周辺の調査地点における検出遺構は良好に保存されている状況である。

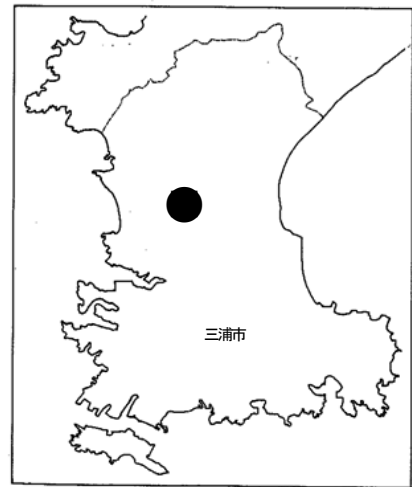


図1 調査地点位置(1)



図2 調査地点位置(2) (1/25000)



図3 調査地点位置(3) (1/6000) 赤線は指定範囲

(2) 遺跡の概要

本遺跡は、三浦半島南部において最初に出現した農耕集落であり、この地域の拠点集落と位置づけられる南関東屈指の大形集落である。また、県内でも弥生時代中期後半から後期に継続して営まれた数少ない集落として重要である。他にも、出土した様々な遺物や、周囲を海に囲まれる三浦半島の先端部という集落の立地から、海上を利用した遠隔地との交流や漁撈活動を

伺わせる遺跡であり、弥生時代の社会を解明する上においても学術的価値が高く、平成 23 年 3 月 8 日に一部が国史跡に指定された。

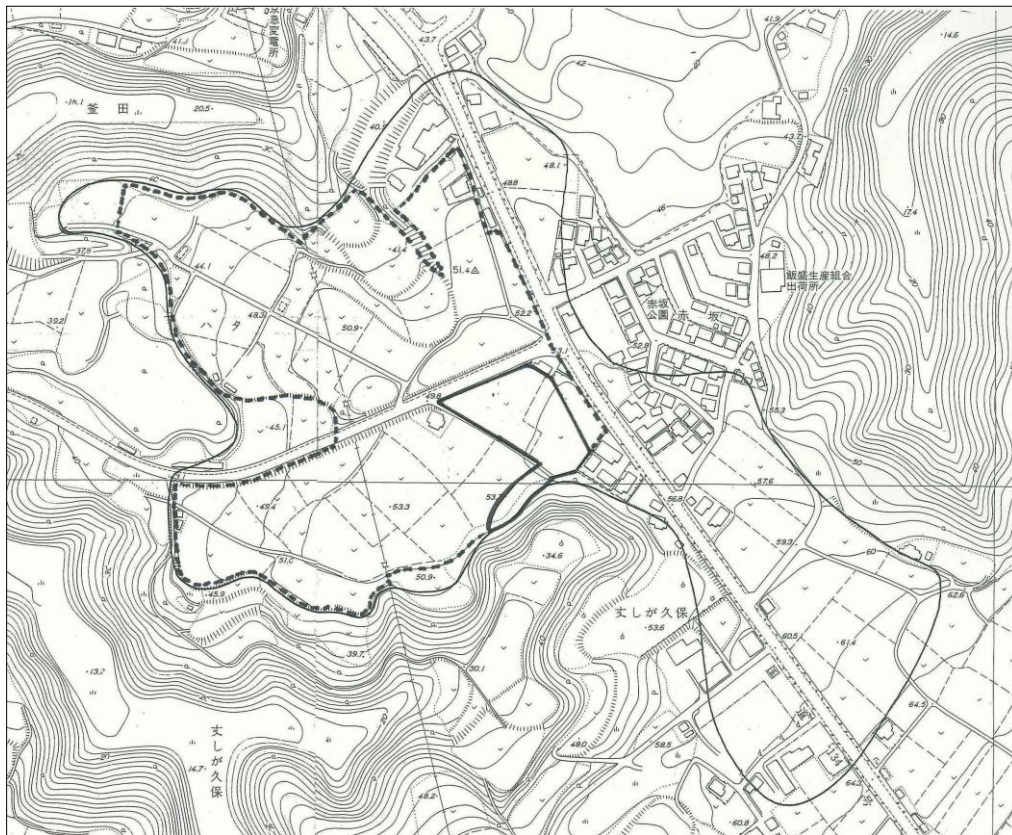


図5 調査地点位置（4）及び赤坂遺跡の範囲(S=1/6000)

実線(太):平成 23(2011)年 3 月 8 日に国史跡の指定を受けた範囲 (4,708,86 m²)、破線:昭和 52(1977)年に文化庁文化財審議会から国史跡指定相当の貴重な遺跡として答申を受けた範囲 (約 5 万 m²)、実線(細):赤坂遺跡全体の範囲 (約 7 万 m²) を示す。

(3) 発掘調査の歩み

本遺跡は、明治31(1898)年刊行の『日本石器時代人民遺物発見地名表 第2版』(東京帝国大学編)に「相模国三浦郡初声村大字下宮田字飯森台 土器、石鏃、打石斧」と記載され、その存在が知られていたが、その後、昭和4(1929)年の市道17号線(通称『御用邸道路』)敷設工事の際に赤星直忠により発見された。そして、『考古学雑誌』(第21巻第2号:昭和6年)や『考古学』(第1巻第5・6号:昭和5年)に報告が掲載され、赤坂遺跡が広く知られることとなった。昭和23・24(1948・1949)年には当時明治大学学生の川上久夫・岡本勇が弥生土器と鉄斧を発見し、また昭和41(1966)年に立教大学博物館講座によって発掘調査が行われて、その重要性が認識されることとなった。さらに、昭和52年以降は横須賀考古学会、赤坂遺跡調査団及び三浦市教育委員会による調査が断続的に実施され、現在で第25次にわたる調査が行われている(下表参照)。

No.	調査年表	調査・報告の年	調査主体者	地点	概要
1	明治31年	1898年(明治31年)	佐藤伝蔵・金沢梯次郎	飯森台	赤坂遺跡付近が石器時代の遺跡であることを初めて紹介。
2	昭和4年	1929年(昭和4年)	赤星直忠	御用邸道路 赤坂	御用邸道路建設時に弥生時代集落跡であることが判明。
3	昭和23年 昭和24年	1948年(昭和23年) 1949年(昭和24年)	川上久夫・岡本勇	ハタ242-1	弥生時代の鉄斧発見。
4	昭和41年	1966年(昭和41年)	岡本勇・立教大学	ハタ242-1	15軒の住居址、青銅製の指輪、遺跡の上限を知る有舌尖頭器発見。
5	昭和51年	1976年(昭和51年)	神奈川県教育委員会	ハタ320-2	天地返しにより2軒住居址調査。
6	昭和52年	1977年(昭和52年)	横須賀考古学会	ハタ246-3	個人住宅による事前調査。溝発見。
7	第1次	1977年(昭和52年)	横須賀考古学会	ハタ320-1	本格調査開始。集落変遷へのアプローチ(第1次調査)。9軒の住居址中15m×12.5mの巨大住居址も発見。
8	第2次	1985年(昭和60年)	横須賀考古学会	ハタ230-1	店舗建築に伴う調査。住居址5軒と溝3条発見。
9	第3次	1989年(平成元年) 1990年(平成2年)	赤坂遺跡調査団	下宮田482	土地区画整理事業に伴う調査。4軒の住居址と石剣・小型磨製石斧の未製品・完成品等発見。
10	第4次	1989年(平成元年)	赤坂遺跡調査団	大原6-1	店舗建築に伴う調査。溝1条と住居址柱穴らしき小pit発見。
11	第5次	1990年(平成2年)	赤坂遺跡調査団	下宮田478-1 外	農地粉砕用サブソイラー導入に伴う遺構確認調査。各畑に1～2ヶ所のグリッドを設定し、遺構の有無を調査。遺構は認められるが、遺存状態が悪いことが判明。
12	第6次	1991年(平成3)	赤坂遺跡調査団	ハタ285、 319-1	5次調査で遺構確認された畑の天地返しに伴う調査。住居址3軒中、長軸14m、短軸12.5mの巨大住居址検出、第1次調査に匹敵するもの。
13	第7次	1992年(平成4)	赤坂遺跡調査団	ハタ320-2	以前天地返しをした畑の調査。床面及び柱穴の残存を確認する。柱穴より弥生時代中期土器出土。
14	第8次	1992年(平成4)	赤坂遺跡調査団	下宮田481・ 483-1	竪穴住居址7軒発見。うち1軒より住居址内貝塚発見。
15	第9次	1992年(平成4)	赤坂遺跡調査団	丈しが久保 71	竪穴住居址5軒発見。
16	第10次	1993年(平成5)	赤坂遺跡調査団	ハタ237-1	竪穴住居址21軒、溝2条発見。
17	第11次	1993年(平成5)	赤坂遺跡調査団	ハタ245-1	竪穴住居址16軒、溝4条発見。
18	第12次	1994年(平成6)	赤坂遺跡調査団	ハタ311	竪穴住居址2軒、方形周溝墓3基、土坑3基発見。方形周溝墓は初。先石器時代の初めての調査実施。
19	第13次	1994年(平成6)	赤坂遺跡調査団	ハタ284他	谷部の畑地のトレンチ調査。竪穴住居址の存在確認。
20	第14次	1994年(平成6)	赤坂遺跡調査団	ハタ260-3・ 246-5	竪穴住居址25軒、溝6条発見。1軒は初の高埴時代住居址。
21	第15次	1995年(平成7)	赤坂遺跡調査団	ハタ284	竪穴住居址10軒、溝1条発見。
22	第16次	1996年(平成8)	赤坂遺跡調査団	ハタ285	竪穴住居址4軒発見。
23	第17次	1997年(平成9)	赤坂遺跡調査団	ハタ252-2他	竪穴住居址4軒発見。
24	第18次	1998年(平成10)	三浦市教育委員会	下宮田485-1	竪穴住居址3軒、溝1条、土坑4基発見。
25	第18次(B 地点)	1999年(平成11)	赤坂遺跡調査団	下宮田485-1	学術調査。竪穴住居址2軒、溝1条発見。
26	第19次	1999年(平成11)	赤坂遺跡調査団	ハタ258-1他	溝状遺構1条発見。方形周溝墓の可能性。
27	第20次	2000年(平成12)	三浦市教育委員会	ハタ238-1	溝状遺構1条発見。大型の方形周溝墓の可能性。
28	第21次	2006年(平成18)	赤坂遺跡調査団	ハタ251他	竪穴住居址27軒、溝1条発見。
29	第22次	2006年(平成18)	赤坂遺跡調査団	ハタ281	溝1条、ピット5基発見。
30	第23次	2007年(平成19)	赤坂遺跡調査団	ハタ251-18 他	竪穴住居址4軒、ピット56基発見。
31	第24次	2007年(平成19)	赤坂遺跡調査団	ハタ251-17	竪穴住居址8軒、ピット184基発見。
32	第25次	2012年(平成24)	三浦市教育委員会	ハタ232他	竪穴住居址、溝状遺構、ピット他発見。

第1表 赤坂遺跡における発掘調査の歩み(各調査年次の文献については巻末参照)

(4) 史跡指定の歩み

東京帝国大学及び赤星直忠の発見から約100年に及ぶ歩みを得て、約65年間にわたって発掘調査及び保護措置がとられてきたが、これより本遺跡が、弥生時代に属する約70,000㎡におよぶ大規模な集落遺跡であることが判明した。そこで、昭和52年度の国文化財審議会の答申範囲を「国指定史跡」としての保護措置を図るべき重要な遺跡としたが、地権者の同意が得られず、その後未告示状態が続いた。さらに宅地造成計画や天地返しが進むなど遺跡の損壊が危惧される状況もみられたが、文化庁・神奈川県および三浦市の関係部局との協議・調整を経て、ようやく平成23年3月8日に4,708.86㎡が国の指定を受けた。この間の本市における指定の取り組みについては、以下の通りである。

年 度	指定に向けた取り組み
昭和52年度	1. 調査により、約70,000㎡に及ぶ関東有数の弥生時代中期集落であることが判明。 2. 同年、範囲内にアパート建設計画が持ち上がる。 3. 文化庁調査官が現地視察し、同年国文化財保護審議会に赤坂遺跡（約50,000㎡）を諮問し、同年12月10日答申を受ける。 4. 地権者の同意が得られず、指定申請を断念。
昭和54年度	1. 昭和40年に行われた学術調査によって、多数の住居址が発見され場所の隣接の宅地開発計画予定地1,012.00㎡を市が購入。
平成5年度	1. 周辺の3,660.00㎡について、平成5年から12年にかけて市土地開発公社による買収計画。国指定史跡としての保存範囲（4,210㎡）について文化庁に説明、協議。
平成7年度	1. 文化庁調査官の視察。市街化部分4,672.00㎡（現在は市道36.86㎡を含め4,708.86㎡）を指定予定範囲とし、将来は追加指定をしながら範囲を広げていく方針で調整。保存範囲内の一部を市及び開発公社が購入。
平成10年度	開発公社による指定範囲内の土地購入終了。
平成11年度	1. 市土地開発公社が、土地所有者への税控除を有利するために先行して買収したと税務署から指摘されることを危惧し、史跡指定に難色を示したため、保留状態になる。国指定史跡の範囲を4,672㎡に変更。
平成13年度	1. 上記の問題を税理士に相談の結果、問題ないとの見解を得たため協議を再開、同年7月31日までに指定申請することで合意。公社も平成14年度までに同意する旨を確認。その後、市道路部局が指定後の規制を危惧し、指定に難色を示し、再度保留になる。
平成16年度	1. 調整を再開。17年度に申請書を提出する方向で協議。
平成17年度	1. 文化庁と指定協議中、答申範囲内に宅地造成計画が進んでいることが判明し、文化庁は事業中止を要請するも、市と宅地造成の事業者との協議不調。 2. 文化庁は今後のこと考え、答申範囲の将来的なヴィジョンを示すよう要請。 3. ヴィジョン提出を前提に平成18年5月に申請書を提出することで文化庁、県、市で合意。 4. 第4次市総合計画において、史跡用地4,708㎡以上の拡張は行わないことを庁議決定。国指定史跡の保存範囲を4,708㎡に変更。
平成18年度	1. 昨年度減の庁議決定により市はヴィジョンを示すことができず、申請見送り。 2. 市は4,708㎡の指定のみ認めるように文化庁へ要望。
平成19年度	1. 市から文化庁に対して4,708㎡のみの指定を求める文書による要望書を提出。 2. 文化庁は要望書の内容では、国審議会に説明することは難しいことを説明。 3. 市は再検討するが結論は出ず。協議中断。
平成20年度	1. 文化庁文化財調査官現地確認。国指定史跡の保存範囲について、県と協議。 2. 今後の取組方針について、将来的に拡大も含めた検討を行うとの方向性について庁議決定。
平成21年度	1. 市が新たなヴィジョンを示したことで、文化庁と指定協議を再開。保存整備全体計画を文化庁に提出。
平成22年度	1. 平成22年4月史跡指定に伴う要望書及び史跡買上げに伴う補助金申請書を文化庁に提出。6月交付決定。 2. 平成22年8月30日付で意見具申書を文化庁に提出。 3. 平成23年3月8日付けで4708.86㎡が国の史跡指定。指定告示と用地取得及び所有権移転。
平成23年度	1. 平成23年6月三浦市赤坂遺跡公園整備検討懇談会設置。 2. 平成23年9月指定地の一部を所管替。 3. 赤坂史跡公園整備基本構想策定。
平成24年度	1. 平成24年4月三浦市赤坂史跡公園整備検討懇談会設置。 2. 平成24年9～10月確認調査実施。 3. 平成24年10月文化庁記念物課調査官現地視察。 4. 平成25年2月国指定史跡の維持管理について県と協議。 5. 平成25年3月事業計画について、文化庁と協議。

第2表 赤坂遺跡における史跡指定の歩み

(5) 三浦市赤坂史跡公園整備検討委員会（三浦市赤坂遺跡公園整備検討懇談会）

平成23年3月8日に赤坂遺跡が国の指定を受けてから、平成23年6月9日付三浦市赤坂遺跡公園整備検討懇談会に関する要綱に基づき下記のとおり三浦市赤坂遺跡公園整備検討懇談会が設置され、翌平成24年3月28日付三浦市赤坂史跡公園整備検討委員会に関する要綱に基づき下記のとおり三浦市赤坂史跡公園整備検討委員会が設置された。懇談会及び委員会の名簿、協議経過については下記のとおりである。

1 三浦市赤坂遺跡公園整備検討懇談会名簿

No.	氏名	所属	分野	備考
1	小川 裕久	三浦市文化財保護委員 (有識者)	考古	座長
2	中村 勉	赤坂遺跡調査団 団長 (有識者)	考古	
3	石渡 輝雄	元三浦市都市部長 (行政経験者)	都市計画	
4	須田 英一	元三浦市教育委員会生涯学習 課文化財保護係長 (有識者)	考古	
5	白勢 順子	元三浦市教育委員会臨時職員 (三浦市民)	市民	
6	谷口 肇	神奈川県教育委員会生涯学習 部文化遺産課副主幹	史跡名勝	

2 三浦市赤坂史跡公園整備検討委員会名簿

No.	氏名	所属	分野	備考
1	小川 裕久	三浦市文化財保護委員 (有識者)	考古	座長
2	中村 勉	赤坂遺跡調査団 団長 (有識者)	考古	
3	石川 日出志	明治大学文学部史学地理学科 教授 (有識者)	考古	
4	須田 英一	慶應義塾大学矢上地区文化財調査室助教 元三浦市教育委員会生涯学習課文化財保護 係長 (有識者)	考古	
5	谷口 肇	神奈川県教育委員会生涯学習部 文化遺産課調査普及グループ副主幹	史跡名勝	オブザーバー

(6) 三浦市赤坂遺跡公園整備検討懇談会協議経過（平成23年度）

第1回 日時 平成23年7月6日（水） 午前10時～午前11時30分

場所 教育委員室（三浦市青少年会館1階）

内容 赤坂遺跡保存整備全体計画について

今後の取り組み計画について

第2回 日時 平成23年9月14日（水） 午後3時30分～午後5時

場 所 会合室（三浦市青少年会館3階）
内 容 赤坂遺跡保存整備事業のスケジュールの見直しについて
赤坂遺跡ホームページ作成の進捗状況について
赤坂歴史公園整備基本構想（素案）について

第3回 日 時 平成23年10月26日（水） 午後3時30分～午後5時
場 所 研修室（初声市民センター2階）
内 容 第2回三浦市赤坂遺跡公園整備検討懇談会の概要について
赤坂遺跡ホームページの公開について
赤坂遺跡国史跡指定記念講演会について
赤坂歴史公園整備基本構想（素案）について

第4回 日 時 平成23年11月25日（金） 午後3時30分～午後5時
場 所 会合室（三浦市青少年会館3階）
内 容 第3回三浦市赤坂遺跡公園整備検討懇談会の概要について
赤坂歴史公園整備基本構想（素案）から赤坂歴史公園整備基本計画（案）への変更について
公園整備基本構想（素案）と公園整備基本計画（案）との新旧対照

第5回 日 時 平成24年1月19日（金） 午後3時～午後5時
場 所 集会室（初声市民センター2階）
内 容 第4回三浦市赤坂遺跡公園整備検討懇談会の概要について
赤坂遺跡公園整備検討懇談会オブザーバーについて
赤坂史跡公園整備計画策定スケジュールについて
赤坂史跡公園整備基本構想（案）について

第6回 日 時 平成24年2月15日（水） 午後3時～午後5時
場 所 集会室（初声市民センター2階）
内 容 第5回三浦市赤坂遺跡公園整備検討懇談会の概要について
赤坂史跡公園整備計画策定スケジュールについて
赤坂史跡公園整備基本構想（案）について

（7）三浦市赤坂史跡公園整備検討委員会協議経過（平成24年度）

第1回 日 時 平成24年4月20日（金） 午後1時30分～午後3時30分
場 所 講義室（初声市民センター2階）
内 容 赤坂史跡公園整備基本構想及び整備基本計画策定スケジュールについて
赤坂遺跡遺構配置図及び遺構検出数等について
現状変更許可申請書の提出について

第2回 日 時 平成24年5月18日（金） 午後2時～午後4時
場 所 集会室（初声市民センター2階）
内 容 現地視察：赤坂遺跡史跡指定地（三浦市初声町三戸232番外）

赤坂遺跡史跡指定地内における範囲確認調査について
植栽状況等について

- 第3回 日時 平成24年10月5日(金) 午前10時～午後12時
場所 会議室A(三浦スポーツ公園管理棟2階)
内容 現地視察:赤坂遺跡史跡指定地(三浦市初声町三戸232番外)
赤坂遺跡史跡指定地内における範囲確認調査について
植栽状況等について
- 第4回 日時 平成24年12月14日(金) 午前10時～午後12時
場所 研修室(初声市民センター2階)
内容 史跡赤坂遺跡範囲確認調査における調査成果の検討について
平成25年度赤坂史跡公園整備計画スケジュールの検討について
植栽状況等について
平成25年度赤坂保存整備事業概要について
- 第5回 日時 平成25年1月18日(金) 午後3時～午後5時
場所 講義室(初声市民センター2階)
内容 史跡赤坂遺跡確認調査報告書等作成のための詳細検討について
記者発表資料について
- 第6回 日時 平成25年2月12日(火) 午前10時～午後12時
場所 講義室(初声市民センター2階)
内容 史跡赤坂遺跡確認調査報告書等作成のための検討結果について
平成25年度事業計画等について
- 第7回 日時 平成25年3月11日(月) 午前10時～午後12時
場所 講義室(初声市民センター2階)
内容 史跡赤坂遺跡確認調査報告書等作成のための検討結果について
平成25年度事業計画等について
史跡名勝天然記念物現状変更等許可申請について

(平成25年度)

- 第1回 日時 平成25年12月20日(金) 午後1時～午後2時30分
場所 講義室(初声市民センター2階)
内容 平成25年度事業計画の検討について
平成26年度以降の事業の進め方について
史跡名勝天然記念物現状変更等許可申請について
史跡赤坂遺跡の芝植栽・管理状況について
- 第2回 日時 平成26年3月13日(木) 午後2時～午後4時

場 所 会議室 A (三浦スポーツ公園管理棟 2 階)
内 容 現地視察：赤坂遺跡史跡指定地 (三浦市初声町三戸 232 番外)
赤坂遺跡史跡指定地内における確認調査について
平成 24 年度史跡赤坂遺跡確認調査報告書 (案)
植栽状況等について
今後の史跡維持管理について

2 確認調査の概要

(1) 調査の目的と意義

赤坂遺跡の史跡指定範囲における調査は、昭和 41 年に行われた立教大学による調査が唯一であり、集落遺跡としての実態は必ずしも明らかにはされていない。そこで、今後の史跡整備の資料・データを収集する目的で、指定範囲内における確認調査を実施する。特に南関東地方の弥生時代中期後半から後期にかけての集落遺跡にみられる環濠が存在するの否か、竪穴住居址などの遺構の分布および遺存状況、耕作土の天地返しの範囲や状況などを把握する必要がある。台地縁辺部における遺構分布状況と環濠の有無を確認するために、指定範囲南端の縁辺部にトレンチを設置した。また、指定地周辺では同時期の竪穴住居址や方形周溝墓が検出されており、指定地内でもこうした遺構は広がることが予想される。指定地北西部において遺構確認のための調査区を設けた。

今回の調査は、赤坂遺跡のなかでも標高の高い地区にあたっており、弥生時代中期から後期の住居群の広がりや環濠の有無、および遺構の遺存状況を確認することが調査の主眼となる。

(2) 確認調査の設定と経過 (図 6)

調査は、指定範囲の南端縁辺部に 2m×10m のトレンチを 3 本 (T1～T3) 設定し、環濠の有無など遺構の分布状況を確認するための調査区とした。また、北東側には同様に 2m×20m のトレンチを 1 本 (T4) 設定し、国道 134 号線西側の隣接地で確認されている方形周溝墓と思われる溝の西側溝の存在が予想されることや竪穴住居址など遺構の分布状況を確認するとともに、天地返しの状況を確認する調査を行った。

調査は、重機による掘削は耕作土のみとし、人力で遺構確認作業を行い、遺構を検出した場合には、遺構の性格を判断する必要最小限の掘り下げのみを行って遺構を保存する方針とした

調査は整備計画策定に必要な情報が確認できた時点で、文化庁・神奈川県教育委員会と協議を行い、三浦市赤坂史跡公園検討委員会の指導を受けながら、今後の保存整備事業計画に反映させられるようにした。また、発掘調査と並行して測量調査も実施した (図 6)。

確認調査対象面積

合 計 100m²

トレンチNo.1 南端部における環濠等遺構確認 2m×10m=20m²

トレンチNo.2 南端部における環濠等遺構確認 2m×10m=20m²

トレンチNo.3 南端部における環濠等遺構確認 2m×10m=20m²

トレンチNo.4 北西部における方形周溝墓等遺構確認 2m×20m=40m² (当初のトレンチNo.4・5を統合)

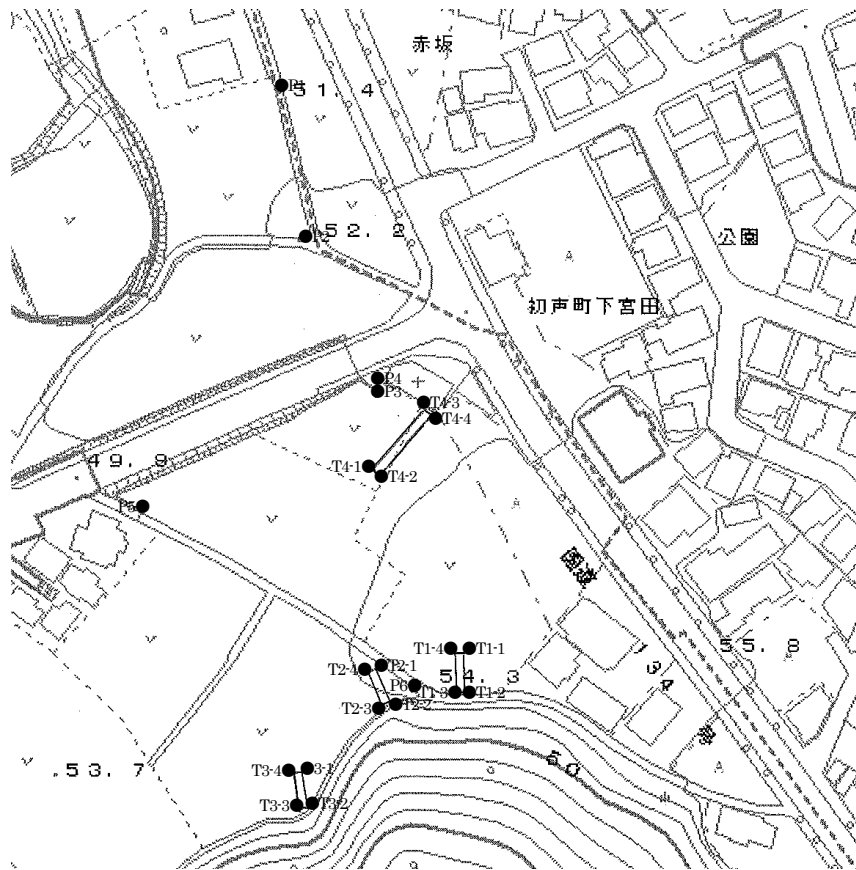


図6 各トレンチ設定図 (1/1500)

No.	測点名	X座標	Y座標	Z座標
1	P1	-91482.631	-18161.944	51.358
2	P2	-91519.671	-18155.905	52.150
3	P3	-91557.929	-18138.861	53.421
4	P4	-91554.719	-18138.838	52.565
5	P5	-91588.306	-18197.060	52.806
6	P6	-91636.562	-18125.622	54.027
7	T1-1	-91626.207	-18114.490	
8	T1-2	-91636.089	-18114.140	
9	T1-3	-91636.179	-18116.118	
10	T1-4	-91626.293	-18116.465	
11	T2-1	-91630.124	-18136.753	
12	T2-2	-91639.628	-18132.920	
13	T2-3	-91640.507	-18134.628	
14	T2-4	-91631.035	-18138.512	
15	T3-1	-91656.425	-18155.546	
16	T3-2	-91666.826	-18153.928	
17	T3-3	-91667.177	-18155.858	
18	T3-4	-91656.892	-18157.411	
19	T4-1	-91565.331	-18122.730	
20	T4-2	-91580.679	-18135.501	
21	T4-3	-91579.413	-18136.954	
22	T4-4	-91564.079	-18124.251	

第3表 座標一覧表(国土座標基準点に基づく)

4 トレンチNo.1の遺構と遺物

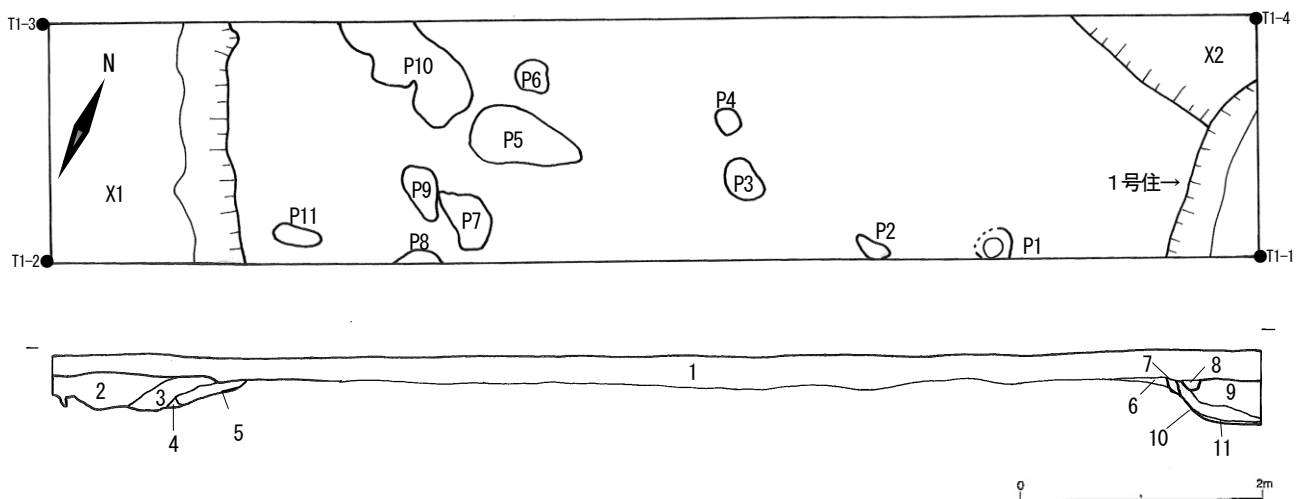
(1) 調査について

平成24年9月25日から日かけてトレンチごとに耕作土を取り除く作業を行い、トレンチNo.1、トレンチNo.4、トレンチNo.3、トレンチNo.2の順番で行った。

トレンチNo.1は、指定範囲最南端、市道467号線の東側に設定したトレンチで、東北-南西方向に延びる幅2m×長さ10mのトレンチである。

本トレンチでは、耕作土が現地表下約15~30cmほどの厚さであり、その直下に遺構面を検出したため、重機による掘削を止め、人力により精査を行った。その結果、ピットと思われる遺構等が多数検出されたため、トレンチ内南側に幅50cmのサブトレンチを設定して確認を行ったところ、トレンチ東端で弥生時代後期の土器を少量含む住居址床面と思われる硬化面を検出した。その硬化面を追って北へ掘り広げたところ、トレンチで広がりが見られたが拡張は行わず、トレンチ内のみ掘り下げた。結果、図5のとおり住居址と思われる遺構とそれと切り合う不明遺構(X2)を各1基検出した。

トレンチ西端では、耕作土を除くとトレンチ西壁から約2.5m東方に及ぶ範囲全体に暗褐色土の広がりが見られた。これを掘り下げると厚さ約20cmの覆土の下からローム面を検出した。このローム面は全体的に凹凸が著しい硬化面であることを確認した。何らかの遺構である可能性が高いが、現地では判断できなかったため不明遺構(X1)とした。その他に、ピット11基を確認したが、そのうち1基のみを発掘した以外はプラン検出だけに留めた。



トレンチNo.1土層説明

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1層 暗褐色土 耕作土1 | 10層 暗褐色土 1号住の覆土2 |
| 2層 暗褐色土 X1の覆土1 | 11層 暗褐色粘質土 1号住貼床? |
| 3層 暗褐色土 X1の覆土2 | |
| 4層 暗褐色土 X1の覆土3 | |
| 5層 暗褐色土 X1の覆土4 | |
| 6層 黄褐色土 ソフトローム層 | |
| 7層 暗褐色土 ロームが入る層 | |
| 8層 黒褐色土 攪乱層、耕作痕跡 | |
| 9層 暗褐色土 1号住の覆土1 | |

図7 トレンチNo.1平面図・断面図 (1/60)

(2) 出土遺物について

今回、トレンチNo.1より20点ほどの土器片が出土した。1号住居址埋土内の出土位置をおさえた土器片はないが、掘削時及び不明遺構より出土した土器・石器については下の写真の通りである。石器は、軽石、敲石及び砥石が各1点出土している。



写真1 トレンチNo.1出土土器・石器



写真2 1号不明遺構出土土器・石器

5 トレンチNo.2 出土の遺構と遺物

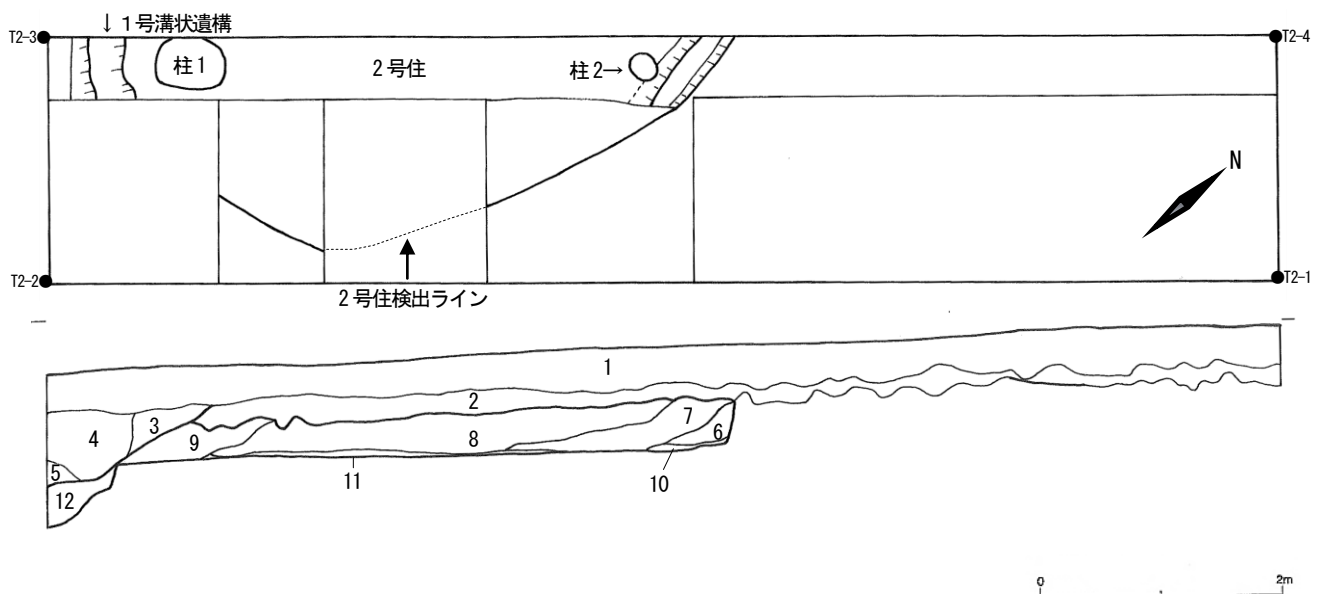
(1) 調査について

トレンチNo.2は、指定範囲の西南端に設定したトレンチで、市道467号線の西側で南北方向にのびる2m×10mのトレンチである。

本トレンチでは、現地表下約30～40cmまでが耕作土で、その直下で遺構面を検出したため、重機による掘削を止め、人力により精査及び掘削を行った。その結果、トレンチ南端で溝と思われる遺構のラインを検出したため、トレンチ内西側に幅50cmのサブトレンチを設定して確認を行ったところ、トレンチ南端の1号溝状遺構の覆土から弥生時代後期の土器を検出した。また、1号溝状遺構の北側を掘り下げたところ、住居址床面と思われる硬化面を検出した。硬化面を追って北へ掘り広げたところ広がりが見られ、トレンチのほぼ中央で壁面を検出したため2号住居址とした。図7のとおり2号住居址と溝状遺構と思われる1号溝状遺構を各1基検出した。住居址内からは弥生時代中期末から後期初頭の土器が出土している。

2号住居址は、サブトレンチだけでは住居址のプランが不明であるため、サブトレンチ脇のトレンチ内を探索したところ、小判形状の竪穴住居址のプランを検出した。また、サブトレンチ内の床面では柱穴と思われるピットを2基検出した。

溝状遺構は、重機で掘削の際に遺構のラインを検出し、サブトレンチ内で掘削を行ったところ、弥生時代後期の土器が埋土から出土したが、溝状遺構は土層2を切っているために新しい可能性が高い。しかし、下部で住居址を切る土層12は、土層3・4よりも溝壁の立ち上がりが急傾斜であり、土層2よりも古い可能性も考え得る。ただし、下部の覆土は、黄褐色土で、しまりがなく、ロームがブロック状に入っている層であり、遺物はほとんど見られなかった。今回の調査結果だけでこの溝状遺構の性格を判断するの困難である。今後、周囲に拡張したうえで判断する必要がある。



トレンチNo.2 土層説明

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1層 暗褐色土 耕作土1 | 7層 暗褐色土 2号住覆土2 |
| 2層 褐色土 耕作土2 | 8層 暗褐色土 2号住覆土3 |
| 3層 暗褐色土 溝状遺構覆土1 | 9層 暗褐色土 2号住覆土4 |
| 4層 暗褐色土 溝状遺構覆土2 | 10層 暗褐色土 2号住覆土5 |
| 5層 褐色土 | 11層 暗褐色粘質土 2号住貼床 |
| 6層 暗褐色土 2号住覆土1 | 12層 黄褐色土 溝状遺構覆土 |

図8 トレンチNo.2 平面図・断面図 (1/60)

(2) 出土遺物について

今回、トレンチNo.2より 50 点ほどの土器片が出土した。2号住居址覆土を掘り下げ中、及び床面直上で検出した土器、また溝状遺構と思われる遺構掘削中に検出した土器については、以下の通りである。石器は、叩石?が1点出土している。



写真3 2号住居址出土土器・石器



写真4 2号住居址床面直上出土土器



写真5 1号溝状遺構出土土器

6 トレンチNo.3 出土の遺構と遺物

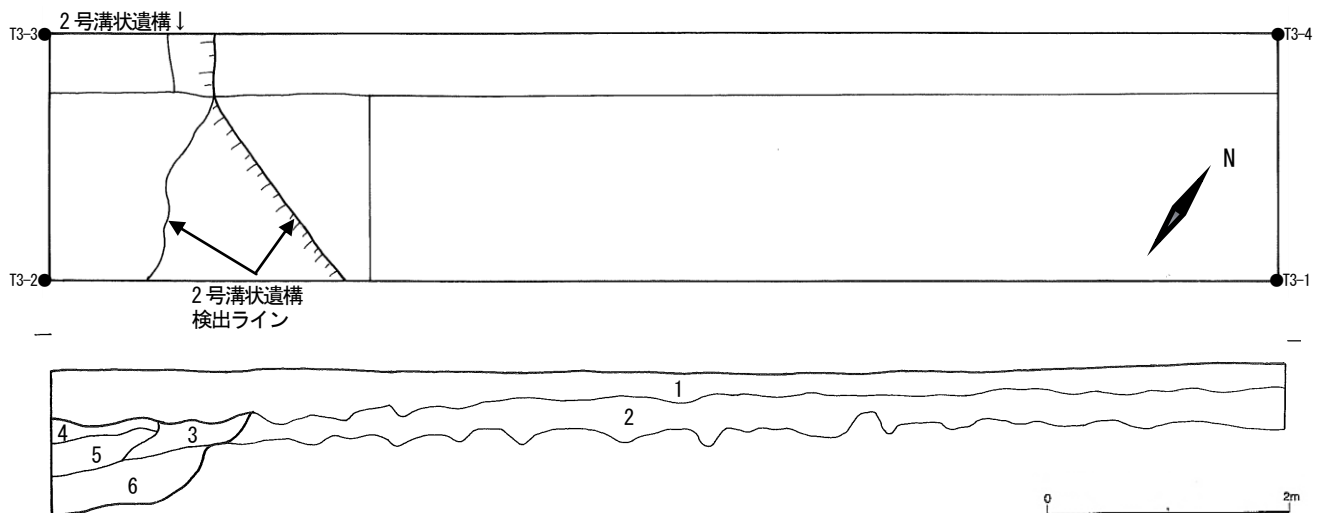
(1) 調査について

トレンチNo.3は、指定範囲最西端に設定したトレンチで、市道467号線の西方約10m付近にトレンチNo.2と同様、南北方向にのびる2m×10mのトレンチである。

本トレンチでは耕作土が現地表下約30～50cmほどの深さに及び、その直下に遺構面を検出したため、重機による掘削を止め、人力により精査及び掘削を行った。その結果、トレンチ南端で溝と思われる遺構のラインを検出した。そこで、トレンチ内西側に幅50cmのサブトレを設定し、確認を行ったところ、トレンチ南端の遺構を2号溝状遺構とし、その覆土から弥生時代後期の土器を検出した。

溝状遺構は、弥生時代後期の土器が埋土から出土したが、溝状遺構の上部はいずれかの時期の耕作が及ぶ第2層を切っており、第2層より新しいと判断できる。1号溝状遺構と同様に、下部は上部に切られている可能性もあるが、1号溝状遺構の下部覆土が暗褐色土でしまりがあるとは土質が異なる。ただし、ロームがブロック状に入る点は類似する。遺物はほとんど見られなかった。

サブトレンチの東側では、溝状遺構はプラン確認面で東北に向かうラインと南東に向かうラインの2本のラインを検出した。この2本の遺構ラインが2号溝状遺構とどのような関係になるかは、今後の調査により調査区の拡張と掘削結果を待たなければならず、今後の課題となった。



トレンチNo.3 土層説明

- 1層 暗褐色土 耕作土1
- 2層 褐色土 耕作土2
- 3層 暗褐色土 溝状遺構覆土1
- 4層 黒褐色土 溝状遺構覆土2
- 5層 暗褐色土 溝状遺構覆土3
- 6層 暗褐色土 溝状遺構覆土4

図9 トレンチNo.3 平面図・断面図 (1/60)

(2) 出土遺物について

今回、トレンチNo.3から50点ほどの土器片が出土した。2号溝状遺構の掘り下げ中、及び床直上で検出した土器については、以下の通りである。石器は、叩石?が1点出土している。



写真6 トレンチNo.3出土土器



写真7 2号溝状遺構床直上出土土器



写真8 2号溝状遺構出土土器

7 トレンチNo.4 出土の遺構と遺物

(1) 調査について

トレンチNo.4は、指定範囲の最北端の位置にあたり、市道467号線の東方に西方向にのびる2m×20mで設定したトレンチである。

本トレンチでは、耕作土が現地地表下約15～40cmほどの厚さがあり、その直下で遺構の存在を確認したため、重機による掘削を止めて、人力により精査及び掘削を行った。その結果、遺構埋土と思われる暗褐色土、及び天地返しの際の痕跡と思われる攪乱を確認した。天地返しの際の攪乱については、精査により攪乱範囲のラインとトレンチ西端部において天地返しを確認するための掘り下げを行った結果、天地返しによる攪乱を確認することができた。トレンチ東南端で平成2(1990)年に保存確認調査を行った際の試掘坑とみるべき痕跡を確認した。この旧試掘坑の西側のトレンチ内の南半部に竪穴住居跡と思われる2か所のコーナーを持つ落ち込みが確認されたので、中央部にセクションラインを設けるように南北方向のサブトレンチを設けたところ、-30cmでロームの床面を確認したので、これを3号住居跡とした。

トレンチのほぼ中央部では、掘り下げの際にサブソイラーの痕跡の中から地表下約40cmのレベルで炉跡と思われる焼土と、その周辺に床面と硬化面をみれば硬化面を確認したため、硬化面を北へ追跡したところ、硬化面が図10で示した範囲に広がることから4号竪穴住居跡とした。焼土及び硬化面ともなって弥生時代中期末から後期の土器が出土した。

4号住居跡の硬化面の周囲にも遺構埋土とみられる土層が広がり、4号住居跡硬化面範囲の東側1mの位置と、西側4～5mの位置で住居跡の輪郭線と思われるラインを検出した。1～数基の遺構が重複する可能性が想定されることから、トレンチの南北壁際に幅50cmのサブトレンチを設けて、掘り下げを行った。

南側サブトレンチを掘り下げたところ、4号住居跡床面より約30cm下位でローム層の床面と柱穴と思われるP1を検出した。4号住居跡と検出レベルが異なるため5号住居跡とした。

トレンチ北寄りのサブトレンチは、4号住居跡硬化面の東側の弧状をなす遺構ラインが、第20次調査で今回調査区の東隣で検出された大形方形周溝墓とみられる溝と対になる西側周溝となる可能性が考えられたことと、4号住居跡硬化面周囲の遺構の重複を読み解くために設けたものである。その結果、サブトレンチ東部では、遺構確認面から約40cm下位で住居跡の床面及び焼土と、同一個体と思われる久ヶ原式土器を検出したので、これを5号住居跡とした。そのため方形周溝墓の溝の可能性はなくなった。西寄りでは、確認面から約20cm下で部分的な硬化面及びピットと思われる遺構を確認し、6号住居跡とした。6号住居跡の東西隣りではさらに約10cm下位で床面を検出し、北側サブトレンチ東寄りおよび南側サブトレンチの床面と同一の住居跡とみなして5号住居跡とした。ここでも久ヶ原式土器の口縁部破片が出土している。しかし、これら各所の床面は高低差が5cm内外に及ぶことや、イモ穴と南側サブトレンチ間の住居跡確認ラインから北側サブトレンチ東端の住居跡ラインまでを1軒の竪穴住居跡とすると8m以上の規模となることを併せ考えると、2軒以上の住居跡が重複する可能性も考慮しておくべきであろう。いずれにせよ、時期的には久ヶ原式土器段階と思われるが、宮ノ台式土器段階まで遡る可能性もある。

本トレンチでは、方形周溝墓の溝は確認することができなかったが、少なくとも4軒以上の住居跡及び天地返しの際の痕跡を確認することができた。住居跡の切れ合い関係や時期などについては、今回のトレンチ調査では各住居跡の関係や時期について明確な判断を下すデータが得られなかったため、次回以降トレンチ枠を拡張して面的に調査をおこなうことが将来的な課題となった。

(2) 出土遺物について

今回、トレンチNo.4よりコンテナ1箱分ほどの土器片が出土した。全体の掘削及び遺構精査時に多量の土器・石器が検出されただけでなく、1号住居跡から4号住居跡の覆土掘り下げ中及び床直上からも土器を検出している。また、トレンチ掘削時に黒曜石の剥片も1点出土しており、叩石も1点出土した。土器については、宮ノ台式土器と久ヶ原式土器がみられるが、久ヶ原式土器が多くみられる。



写真9 トレンチNo.4出土土器・石器



写真10 トレンチNo.4出土土器



写真11 3号住居址出土土器



写真12 3号住居址下部出土土器



写真13 4号住居址出土土器 (焼土1付近)

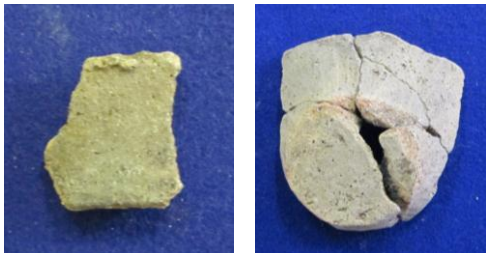


写真14 南サブトレンチ柱1出土土器



写真15 4号住居址出土土器



写真16 5号住居址床上出土土器
(北側サブトレンチ東側)



写真17 北側サブトレンチ出土土器



写真18 5号住居址床上出土土器 (北側サブトレンチ西側)



写真19 北側サブトレンチ西側出土土器

8 調査成果について

今回の調査は約 46 年ぶりの指定地内調査となるが、その実施にあたっては、文化庁、神奈川県教育委員会及び三浦市赤坂史跡公園整備検討委員会の指導に基づき、「環濠」の有無を確定するため指定地南端の台地縁辺部に 2m×10m のトレンチ（調査溝、以下「T」とする）を 3 本（T1～T3）設定し、「方形周溝墓」の存在が想定される指定地北西部には 2m×20m のトレンチを 1 本（T4）設定して行った。また、T4 の畑地¹においては、過去に天地返しが行われており、その範囲を明確に確認することも併せて目的とした。

主な調査成果としては、弥生時代中期末から後期にかけての竪穴住居址が 6 軒、溝状遺構 2 条、その他にピット 11 基、不明遺構 2 基を検出し、コンテナ 2 箱分の弥生時代中期末から後期にかけての土器片と石器が出土した。

まず、T1 では、弥生時代後期に属すると思われる竪穴住居址の一部を検出し、その他にピット 11 基、不明遺構 2 基を検出した。竪穴住居址は、一部を確認したが、西側へ拡張してゆくものと思われるが、今回の調査では確認するまで至らなかった。

T2・T3 で、弥生時代中期末～後期初頭に属する住居址及び弥生時代後期と思われる溝状遺構が発見された。ただし、今回の調査範囲では、この溝状遺構を「環濠」とは断定できなかった。とりわけ、T3 の溝状遺構は、住居址である可能性もあり、その走行性については今回の調査では確認できていない。また、T4 では、「方形周溝墓」は確認されなかったが、弥生時代中期末から後期にかけての 4 軒の竪穴住居址が上下左右に重なり合う状況で発見され、赤坂遺跡における集落の継続性及び密集度の高さの一端が窺える調査成果となった。出土遺物としては、各竪穴住居址から弥生時代中期から後期の土器片が出土した。特に弥生後期前半「久ヶ原式」土器が多く出土した。

赤坂遺跡関係文献一覧表

No.	発行年	著者	所収書名	発行者
1	1898.7	東京帝国大学	『日本石器時代人民遺物発見地名表第2版』	東京帝国大学
2	1931.2	赤星直忠	「考古二件」『考古学雑誌』21-2、77-80頁	考古学会
3	1951.10	川上久夫	「神奈川県三浦郡赤坂遺跡」『日本考古学年報』1（昭和23年度）、75-76頁	日本考古学協会
4	1967.3	岡本勇	「三浦市赤坂遺跡の調査」『Museion』13、38-42頁	立教大学博物館学講座
5	1969.5	剣持輝久・浜田勘太 他	「主要遺跡の解説、三浦半島の古代文化」『かながわ文化財』57、58合併、12-26頁	神奈川県文化財協会
6	1971.4	岡本勇	「神奈川県三浦市初声赤坂遺跡」『日本考古学年報』19（昭和41年度）、107-108頁	日本考古学協会
7	1977.11	赤坂遺跡調査団	『三浦市赤坂遺跡』	三浦市教育委員会
8	1978.11	飯島重一	「三浦市赤坂遺跡採集の石器二例」『横須賀考古学会年報』21、27-28頁	横須賀考古学会
9	1979.4	日本考古学協会	「赤坂遺跡」『日本考古学年報』30（1977年度版）、183頁	日本考古学協会
10	1987.3	小川裕久・中村勉	『三浦市赤坂遺跡の調査-Aトレンチ地点調査の概要-』	三浦市教育委員会
11	1992.3	中村勉・諸橋千鶴子	『三浦市赤坂遺跡-第3次調査地点の調査報告-』	赤坂遺跡調査団
12	1992.3	中村勉	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第2集 赤坂遺跡にみる遠い祖先の暮らし』	三浦市教育委員会
13	1994.8	中村勉・諸橋千鶴子	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第3集 赤坂遺跡-第2次・第4次・第5次・第6次・第7次調査地点の報告-』	三浦市教育委員会
14	1994.11	中村勉	「三浦市赤坂遺跡第8・9次調査 第1回三浦半島地区遺跡調査発表会発表要旨」『横須賀考古学会年報』29、51-53頁	横須賀考古学会
15	1995.11	中村勉・諸橋千鶴子	「三浦市赤坂遺跡第10・11次調査 第2回三浦半島地区遺跡調査発表会発表要旨」『横須賀考古学会年報』30、56-57頁	横須賀考古学会
16	1995.11	中村勉・諸橋千鶴子	「三浦市赤坂遺跡第12・14次調査 第3回三浦半島地区遺跡調査発表会発表要旨」『横須賀考古学会年報』30、3-9頁	横須賀考古学会
17	1996.9	中村勉	「三浦市赤坂遺跡」『第20回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』44-49頁	神奈川県考古学会
18	1996.10	中村勉・諸橋千鶴子	「三浦市初声町赤坂遺跡第15次調査 第4回三浦半島地区遺跡調査発表会発表要旨」『横須賀考古学会年報』31、3-5頁	横須賀考古学会
19	1996.11	諸橋千鶴子	「弥生時代の炉について-三浦市赤坂遺跡から考える-」『御浦』12、42-50頁	三浦文化研究会
20	1997.4	山本薫・柴田徹外	「神奈川県三浦市赤坂遺跡出土のガラス質黒色安山岩製石器の石材産地について」『考古論叢神奈河』6、77-86頁	神奈川県考古学会
21	1998.11	中村勉・諸橋千鶴子	「三浦市赤坂遺跡第17次調査 第6回三浦半島地区遺跡調査発表会発表要旨」『横須賀考古学会年報』33、2-3頁	横須賀考古学会
22	1998.11	諸橋千鶴子	「三浦市赤坂遺跡出土の土製円盤」『御浦』14、8-18頁	三浦文化研究会
23	1999.2	中村勉	「三浦市赤坂遺跡-三浦半島最大の弥生集落遺跡-」『月刊考古学ジャーナル』441、22-23頁	ニューサイエンス社
24	1999.10	須田英一	「三浦市初声町下宮田赤坂遺跡第18次調査 第7回三浦半島地区遺跡調査発表会発表要旨」『横須賀考古学会年報』34、13-14頁	横須賀考古学会
25	2000.3	中村勉・諸橋千鶴子	『神奈川県三浦市赤坂遺跡-第19次調査地点の調査報告書-』	赤坂遺跡調査団
26	2000.11	中村勉・諸橋千鶴子	「三浦市赤坂遺跡第18次B地点 第8回三浦半島地区遺跡調査発表会発表要旨」『横須賀考古学会年報』35、3-4頁	横須賀考古学会
27	2000.11	中村勉・諸橋千鶴子	「三浦市赤坂遺跡第19次調査地点 第8回三浦半島地区遺跡調査発表会発表要旨」『横須賀考古学会年報』35、5-6頁	横須賀考古学会
28	2001.2	中村勉	「東日本における磨製石剣の意義-三浦市赤坂遺跡の例を中心として-」『考古論叢神奈河』9、109-138頁	神奈川県考古学会
29	2001.3	中村勉・諸橋千鶴子 外	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第5集 赤坂遺跡-第8次調査地点の調査報告-』	三浦市教育委員会
30	2001.3	中村勉・諸橋千鶴子 外	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第6集 赤坂遺跡-個人専用住宅新築工事に伴う第18次調査地点の発掘調査-』	三浦市教育委員会
31	2001.11	須田英一	「三浦市赤坂遺跡第20次調査 第9回三浦半島地区遺跡調査発表会発表要旨」『横須賀考古学会年報』36、10-11頁	横須賀考古学会
32	2002.3	中村勉・諸橋千鶴子	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第7集 赤坂遺跡-第9次調査地点の調査報告-』	三浦市教育委員会
33	2003.3	須田英一	「初声町三戸字はた238-1・6における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第10集 -平成12年度市内遺跡発掘調査報告書-』10-12頁	三浦市教育委員会
34	2004.3	中村勉・諸橋千鶴子	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第13集 赤坂遺跡-天地返しに伴う第10次調査地点の調査報告-』	三浦市教育委員会

35	2006.3	中村勉・諸橋千鶴子	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第17集 赤坂遺跡―天地返しに伴う第11次調査地点の調査報告―』	三浦市教育委員会
36	2007.1	中村勉・諸橋千鶴子	『三戸地区特別高圧送電線鉄塔建替工事に伴う第22次調査地点の調査報告』	赤坂遺跡調査団
37	2007.3	須田英一	「初声町下宮田441-4における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第18集 ー平成16年度市内遺跡発掘調査報告書ー』15-18頁	三浦市教育委員会
38	2008	諸橋千鶴子	「三浦市初声町赤坂遺跡第23次調査」『横須賀考古学会年報』43、6-7頁	横須賀考古学会
39	2008	諸橋千鶴子	「三浦市初声町赤坂遺跡第24次調査」『横須賀考古学会年報』43、8-9頁	横須賀考古学会
40	2008.3	須田英一	「初声町三戸字ハタ251外9筆における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第19集 ー平成16年度市内遺跡発掘調査報告書ー』8-15頁	三浦市教育委員会
41	2009.3	中村勉・諸橋千鶴子外	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第20集 赤坂遺跡―天地返しに伴う第12次調査地点の調査報告―』	三浦市教育委員会
42	2009.3	須田英一	「初声町三戸字ハタ279-1外2筆における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第21集 ー平成18年度市内遺跡発掘調査報告書ー』4-7頁	三浦市教育委員会
43	2009.3	須田英一・渡辺直哉	「初声町三戸字ハタ231-1外2筆における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第21集 ー平成18年度市内遺跡発掘調査報告書ー』18-20頁	三浦市教育委員会
44	2010.3	須田英一	「初声町三戸字ハタ251番18外3筆における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第22集 ー平成19年度市内遺跡発掘調査報告書ー』1-4頁	三浦市教育委員会
45	2010.3	須田英一	「初声町三戸字ハタ251番17における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第22集 ー平成19年度市内遺跡発掘調査報告書ー』8-11頁	三浦市教育委員会
46	2010.3	須田英一	「初声町三戸字ハタ251-25、254-2における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第22集 ー平成19年度市内遺跡発掘調査報告書ー』27-30頁	三浦市教育委員会
47	2010.9	諸橋千鶴子・中村勉	『赤坂遺跡―第23次第24次調査概要報告書―』	赤坂遺跡調査団
48	2011.3	須田英一・渡辺直哉	「初声町三戸字はた270番1における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第23集 ー平成20年度市内遺跡発掘調査報告書ー』5-7頁	三浦市教育委員会
49	2011.3	須田英一・渡辺直哉	「初声町三戸254-8における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第23集 ー平成20年度市内遺跡発掘調査報告書ー』8-10頁	三浦市教育委員会
50	2011.3	須田英一・渡辺直哉	「初声町三戸字丈しが久保71-19、-28における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第23集 ー平成20年度市内遺跡発掘調査報告書ー』17-19頁	三浦市教育委員会
51	2011.3	須田英一・渡辺直哉	「初声町下宮田字赤坂434番外における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第23集 ー平成20年度市内遺跡発掘調査報告書ー』35-37頁	三浦市教育委員会
52	2012.3	須田英一・渡辺直哉	「初声町三戸字大原39番外における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第24集 ー平成21年度市内遺跡発掘調査報告書ー』4-10頁	三浦市教育委員会
53	2012.3	小川裕久・渡辺直哉	「初声町三戸字ハタ236番1における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第24集 ー平成21年度市内遺跡発掘調査報告書ー』21-25頁	三浦市教育委員会
54	2013.3	渡辺直哉	「初声町三戸254番5における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第26集 ー平成22年度市内遺跡発掘調査報告書ー』1-3頁	三浦市教育委員会
55	2013.3	渡辺直哉	「初声町下宮田字赤坂地内における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第26集 ー平成22年度市内遺跡発掘調査報告書ー』4-6頁	三浦市教育委員会
56	2013.3	中村勉・諸橋千鶴子	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第26集 赤坂遺跡―宅地造成に伴う第17次調査地点の調査報告―』	三浦市教育委員会
57	2014.3	渡辺直哉	「初声町三戸字ハタ236番1における遺跡試掘調査」『三浦市埋蔵文化財調査報告書第27集 ー平成23年度市内遺跡発掘調査報告書ー』13-20頁	三浦市教育委員会

第4表 赤坂遺跡文献一覧表（発行年順）

No.	調査年	調査年	発行者・著者	発行年	報告書名
1	明治31年	1898年(明治31年)	佐藤伝蔵・金沢悌次郎	明治31(1898)年	『日本石器時代人民遺物発見地名表第2版』
2	昭和4年	1929年(昭和4年)	赤星直忠	昭和4(1929)年	『赤星ノート』神奈川県埋蔵文化財センター所蔵
3			赤星直忠	昭和5(1930)年	「三浦半島に於ける彌生式遺跡の分布」『考古学』1(5・6合併号)
4			赤星直忠	昭和6(1931)年	「考古二件」『考古学雑誌』21-2
5	昭和23年 昭和24年	1948年(昭和23年) 1949年(昭和24年)	川上久夫	昭和26(1951)年	「神奈川県三浦郡赤坂遺跡」『日本考古学年報(昭和23年度)』1
6	昭和41年	1966年(昭和41年)	岡本勇	昭和42(1967)年	『立教大学博物館研究』No.13
7	昭和42年		赤星直忠	昭和42(1967)年	「三浦半島の洞穴遺跡」『日本の洞穴遺跡』
8	昭和51年	1976年(昭和51年)	三浦市教育委員会	昭和52(1977)年	『三浦市赤坂遺跡』
9	昭和52年	1977年(昭和52年)	三浦市教育委員会	昭和52(1977)年	『三浦市赤坂遺跡』
10	第1次	1977年(昭和52年)	三浦市教育委員会	昭和52(1977)年	『三浦市赤坂遺跡』
11	第2次	1985年(昭和60年)	三浦市教育委員会	平成6年(1994)年	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第3集』

12	第3次	1989年(平成元年) 1990年(平成2年)	赤坂遺跡調査団	平成4年(1992)年	『三浦市赤坂遺跡・第3次調査地点の調査報告』
13	第4次	1989年(平成元年)	三浦市教育委員会	平成6年(1994)年	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第3集』
14	第5次	1990年(平成2年)	三浦市教育委員会	平成6年(1994)年	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第3集』
15	第6次	1991年(平成3年)	三浦市教育委員会	平成6年(1994)年	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第3集』
16	第7次	1992年(平成4年)	三浦市教育委員会	平成6年(1994)年	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第3集』
17	第8次	1992年(平成4年)	三浦市教育委員会	平成13(2001)年	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第5集』
18	第9次	1992年(平成4年)	三浦市教育委員会	平成14(2002)年	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第7集』
19	第10次	1993年(平成5年)	三浦市教育委員会	平成16(2004)年	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第13集』
20	第11次	1993年(平成5年)	三浦市教育委員会	平成18(2006)年	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第17集』
21	第12次	1994年(平成6年)	三浦市教育委員会	平成21(2009)年	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第20集』
22	第13次	1994年(平成6年)	赤坂遺跡調査団	平成6年(1994)年	『赤坂遺跡第13次調査概報』
23	第14次	1994年(平成6年)	赤坂遺跡調査団	平成7年(1995)年	『赤坂遺跡第14次(A・B地点)調査概報』
24	第15次	1995年(平成7年)	赤坂遺跡調査団	平成8年(1996)年	『赤坂遺跡第15次調査概報』
25	第16次	1996年(平成8年)	赤坂遺跡調査団	平成9年(1997)年	『赤坂遺跡第16次調査概報』
26	第17次	1997年(平成9年)	赤坂遺跡調査団	平成10年(1998)年 平成25年(2013)年	『赤坂遺跡第17次調査概報』 『三浦市埋蔵文化財調査報告書第25集』
27	第18次	1998年(平成10年)	三浦市教育委員会	平成13(2001)年	『三浦市埋蔵文化財調査報告書第6集』
28	第18次(B地点)	1999年(平成11年)	赤坂遺跡調査団	平成12(2000)年	『神奈川県三浦市赤坂遺跡第18次B地点発掘調査概報』
29	第19次	1999年(平成11年)	赤坂遺跡調査団	平成12(2000)年	『神奈川県三浦市赤坂遺跡第19次調査地点の調査報告書』
30	第20次	2000年(平成12年)	赤坂遺跡調査団	平成12(2000)年	『神奈川県三浦市赤坂遺跡発掘調査概報 三浦海岸聖書教会新築工事に伴う第20次調査』
31	第21次	2006年(平成18年)	赤坂遺跡調査団	平成18(2006)年	『神奈川県三浦市赤坂遺跡発掘調査概報 宅地造成工事に伴う第21次調査』
32	第22次	2006年(平成18年)	赤坂遺跡調査団	平成19(2007)年	『神奈川県三浦市赤坂遺跡 三戸特別高圧送電線鉄塔建替工事に伴う第22次調査地点の調査報告』
33	第23次	2007年(平成19年)	赤坂遺跡調査団	平成21(2010)年	『神奈川県三浦市赤坂遺跡-第23次・第24次調査概要報告書-』
34	第24次	2007年(平成19年)	赤坂遺跡調査団	平成21(2010)年	『神奈川県三浦市赤坂遺跡-第23次・第24次調査概要報告書-』
35	第25次	2012年(平成24年)	三浦市教育委員会	平成25(2013)年	『三浦市史跡確認調査概報 国指定史跡赤坂遺跡[平成24年度史跡赤坂遺跡確認調査概報]』

第5表 赤坂遺跡文献一覧表(調査年次順)